

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22049

建築物名称	トヨタモビリティ神奈川 川崎元木店 新築工事
建築主	神奈川トヨタ自動車株式会社 代表取締役 市川 英治
建築物の所在地	川崎市川崎区元木1丁目1-15の一部、他6筆
設計者氏名、建築士事務所名	岩崎 清 ケイ・ティ・ストアマネジメント一級建築士事務所株式会社
工事種別	新築
床面積の合計	2,005.21㎡
用途	自動車修理工場、店舗(自動車販売)、事務所、自動車車庫
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了予定年月	令和6年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、地中熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

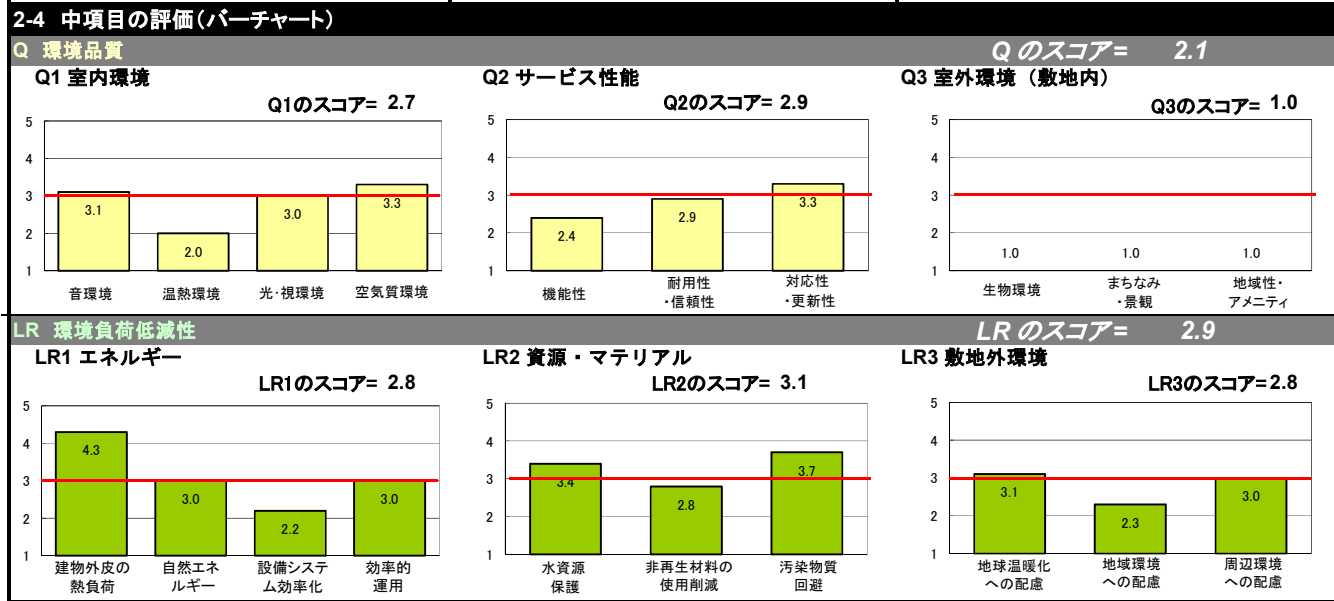
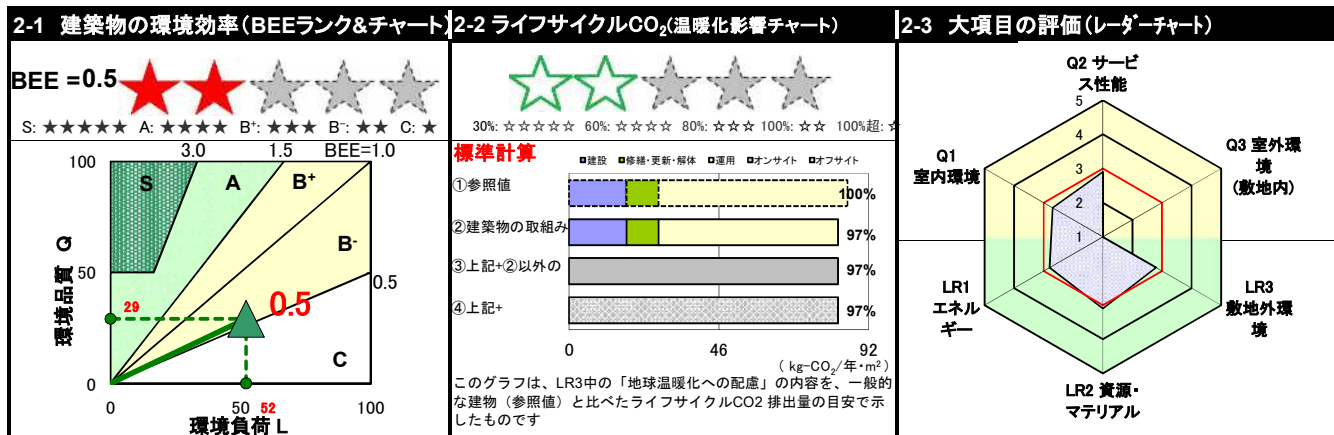
Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタモビリティ神奈川 川崎元木店 新築工事	階数	地上2F
建設地	神奈川県川崎市川崎区元木1丁目1-15の一部、他6筆	構造	S造
用途地域	商業地域 第二種住居地域、準防火地域 防火地域	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年02月 予定	評価の実施日	2022年12月09日
敷地面積	3,038 m ²	作成者	岩崎 清
建築面積	2,033 m ²	確認日	2022年12月16日
延床面積	2,005 m ²	確認者	市川 英治



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし。	0.9/4.3	1.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし。	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.4
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	特になし。	0.4/0.7	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし。	0.5/2.3	1.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.87。	2.9/5.0	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。 ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	2.9/4.7	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし。	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒(C)、Eは不使用。	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。	2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	特になし。	0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし。	0.5/2.3	1.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.87。	2.9/5.0	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし。	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	特になし。	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	特になし。	0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.87。	2.9/5.0	2.9

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質													2.1	
Q1 室内環境									0.34		-		2.7	
1 音環境								3.1	0.15		-		3.1	
1.1 室内騒音レベル								3.0	0.40		-			
1.2 遮音								3.0	0.40		-			
1 開口部遮音性能								3.0	0.68		-			
2 界壁遮音性能								3.0	0.32		-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-		-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-		-			
1.3 吸音								3.5	0.20		-			
						壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している。								
2 温熱環境								2.0	0.35		-		2.0	
2.1 室温制御								3.0	0.50		-			
1 室温								3.0	0.40		-			
2 外皮性能			W					3.0	0.23		-			
3 ゾーン別制御性								3.0	0.37		-			
2.2 湿度制御								1.0	0.20		-			
2.3 空調方式								1.0	0.30		-			
3 光・視環境								3.0	0.25		-		3.0	
3.1 昼光利用								3.0	0.34		-			
1 昼光率								3.0	0.48		-			
2 方位別開口									-		-			
3 昼光利用設備			W					3.0	0.52		-			
3.2 グレア対策								3.0	0.24		-			
1 昼光制御			W					3.0	1.00		-			
3.3 照度								3.0	0.12		-			
3.4 照明制御								3.0	0.30		-			
4 空気質環境								3.3	0.25		-		3.3	
4.1 発生源対策								4.0	0.50		-			
1 化学汚染物質								4.0	1.00		-			
						JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。								
4.2 換気								2.5	0.30		-			
1 換気量								3.0	0.37		-			
2 自然換気性能								4.0	0.27		-			
3 取り入れ外気への配慮								1.0	0.37		-			
						自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。								
4.3 運用管理								3.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視								-	-		-			
2 喫煙の制御								3.0	1.00		-			

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9	
1 機能性						2.4	0.40	-	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ						2.4	0.40	-	-	
1	広さ・収納性					1.0	0.27	-	-	
2	高度情報通信設備対応					3.0	0.27	-	-	
3	バリアフリー計画					3.0	0.46	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.5	0.30	-	-	
1	広さ感・景観				売場の天井高3.3m以上。	4.6	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース					2.0	0.33	-	-	
3	内装計画					1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒(C)、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					2.0	0.20	-	-	
3	電気設備					3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり						4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				階高: 3.7m以上。	4.4	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ				0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						—	0.36	-	-	1.0
1 生物環境の保全と創出				G	W					1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						1.0
3 地域性・アメニティへの配慮										1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										1.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					1.0

LR 建築物の環境負荷低減性										2.9		
LR1 エネルギー									0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	BPI _m = 0.87。	4.3	0.20	-	-	-	-	4.3	
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEI _m] = 0.95	2.2	0.50	-	-	-	-	2.2	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	-	-		
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	-	-	-		
集合住宅の評価							-	-	-	-		
4.1 モニタリング	W		H				-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	W		H				-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル									0.30	-	-	3.1
1 水資源保護	W	R			3.4	0.20	-	-	-	-	3.4	
1.1 節水				節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	-	-		
1				雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-	-		
2				雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.60	-	-	-	-	2.8	
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.10	-	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	-	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-	1.0	0.20	-	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	W	R		LGS使用している。	5.0	0.20	-	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.7	0.20	-	-	-	-	3.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70	-	-	-	-		
1	W			消火剤	-	-	-	-	-	-		
2	W			発泡剤(断熱材等)	5.0	0.50	-	-	-	-		
3	W			冷媒	3.0	0.50	-	-	-	-		
LR3 数地外環境									0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率が97%。	3.1	0.33	-	-	-	-	3.1	
2 地域環境への配慮					2.3	0.33	-	-	-	-	2.3	
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				G W H	2.0	0.50	-	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.2	0.25	-	-	-	-		
1			R	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-	-		
2			R	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-		
3			R	交通負荷抑制	2.0	0.25	-	-	-	-		
4			R	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	-	-		
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	-	-		
1				騒音	3.0	1.00	-	-	-	-		
2				振動	-	-	-	-	-	-		
3				悪臭	-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	-	-		
1				風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	-		
2				砂塵の抑制	1.0	-	-	-	-	-		
3				日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	-	-		
1				屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	-	-		
2				星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	-		